

# 行政報告

市議会12月定例会が11月30日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

## 新型インフルエンザ

新型インフルエンザは、全国的に感染が拡大していて、9月下旬以降、市内の小・中学校や保育施設で次々と感染が確認されたため、学級閉鎖などの対応や緊急の講演会を開催して啓発活動などを行いました。

一方、ワクチン接種は、10月下旬から国が示した優先順位で行われていますが、重症化するケースが多い1歳から小学3年生までの小児は、前倒しで12月7日から実施されています。

冬を迎え、季節性インフルエンザの感染者も増えると予想されることから、今後も感染の拡大と重症化の防止に向けて危機管理体制を強化していきます。

## 市有林の無断伐採

十二所字上太沢<sup>かみたざわ</sup>地内の市有林が、北秋田市の林業業者によって無断伐採されていることが、市民からの通報で判明しました。

この市有林は保安林に指定されている

## 平成21年の農業

地域にも影響を与えています。こうした状況下ですが、遠藤林業株式会社<sup>とんどう</sup>が29人体制で大館工場を本格稼働させ、10月26日付けで条例指定工場となりました。また、ニプロファーマ株式会社<sup>にっぽろ</sup>では、10月1日から製剤工場2棟を稼働し、ニプロ株式会社でも増築した滅菌棟を来年始めから稼働の予定です。

7月の長雨、強風、豪雨や8月下旬から9月中旬にかけての低温などで、水稲の登熟が遅れるなど農作物の生育不順が見られました。

水稲は「平成21年産の作付面積及び予想収穫量」によると、作況指数が全県で99、県北では98の「やや不良」となりました。



やや不良となった水稲

山の芋は、10月中旬から収穫作業を始め、10月29日から出荷が開始されました。品質は平年並みですが、小玉傾向のため収穫量は減少しています。市場価格は平年並みで推移していますが、販売額の減少が見込まれるため、販売促進活動を強化していきます。

アスパラガスは、長雨の影響で病害虫が発生し、品質、収量とも昨年を下回りましたが、価格が高値で推移したこと、販売額は昨年を若干上回る結果となりました。

## 大館市バイオオマスタウン構想の進捗状況

7月31日に国の認定を受け、バイオオマス活用策として「市有林間伐事業で発生する間伐材からの木質バイオオマスの燃料化」と「ペレットストーブの導入」を推進してきました。本年度は公共施設に90台のペレットストーブを導入し、来年度のペレットボイラー導入についても検討を進めています。

また、11月17日には「庁内バイオオマス利活用推進委員会」を設置し、施策の調整や調査・研究を行っています。来年度は、産・学・官連携の「大館市バイオオマス利活用推進会議」を立ち上げたいと考えています。

地球温暖化問題が深刻化し、温室効果ガスの排出削減が急務であることから、従来の化石燃料に替えて地域資源のバイオオマスを有効活用し、地域循環型社会の構築を目指します。

## 「ハチ公」効果による

### 観光振興

リチャード・ギア氏の来日歓迎セレモニーは「犬文字」とともに、ハチ公のふるさと「大館」を日本全国にPRする絶好の機会となりました。

また、8月8日にオープンした「大館市観光物産プラザ」は、観光物産情報の発信、パネル展示、産業観光のプレゼンテ

## 雇用情勢

市民の貴重な財産を侵害されたことは極めて遺憾で、今後、現地の原状回復はもとより、損害賠償なども議会に相談し請求していきます。

3月に市内の高等学校を卒業予定の生徒のうち、10月末現在、就職希望者は208人で、そのうち県外希望者が113人、県内希望者が95人となっています。内定率は、県外83・1%、県内68・4%、平均76・4%で、全県平均を14・3ポイント上回り、県内ではトップクラスです。今後とも関係機関と連携し、希望者全員の就職を目指していきます。

大館市工場等設置促進条例に基づく指定工場では、10月1日現在、指定工場数62、従業員数は4265人で、昨年同期と比べ29人減少し、厳しい経済情勢が本